

# 副市長体制、政策アドバイザーに質問集中



総務常任委員会は18日、上越市の人事改革方針(案)についての所管事務調査を行いました。

この中では、副市長体制、政策アドバイザー制度について質問が集中しました。

人事改革担当の中澤部長は、副市長体制について、「当面2人でいくが、第7次総合計画を効率的に着実に進めるため、3月までに2人の副市長の仕事をごのようにしていくか検討していく」ことを明らかにしました。私は「副市長2人でやっていけるなら、このまま2人体制でいったらいいではないか」と訴えました。

また、「政策アドバイザー制度」ですが、8月に行われた総務常任委員会の説明では、「導入する」となっていたものが、今回、「検討する」になりました。私は、「導入する」から「検討する」に方針を変えるなら、どういう検討課題があるのか整理して示すべきだと訴えました。



このほか、私からは、この計画を作成するにあたって、アンケートなどによる職員意見を踏まえて課題を整理したことを評価しつつも、「これまで市民から寄せられた人事に対する声を整理し、それらにどう応えていくかについても検討するよう」求めました。

中澤部長は、市民の声を整理することには前向きな答弁でした。

## 鳥獣被害対策など研修

上越三市議会議員合同研修会が18日、開催されました。

メインの講演は、NPO法人新潟ワイルドライフリサーチ理事の今村舟さんが講師で、「野生動物との共存を目指して」というタイトルで話していただきました。

注目の鳥獣被害対策については、①集落環境診断に取り組み、自治体、農業者・住民、狩猟者が役割分担して進める、②対策は環



【オオイワカガミ】イワウメ科の多年草。漢字で「大岩鏡」と書きます。21日に吉川区内でこの花と出会い、びっくりしました。まさか、冬を目前にしたこの時期に花と出会うとは思わなかったからです。通常は4月から6月に咲きます。花は下向きで、恥ずかしそうに咲きます。高山植物ではありますが、低地にもあります。花言葉は「忠実」です。

## 2022年12月議会審議日程 (いずれも午前10時開会)

日	会議名	場所	備考
11月30日(水)	本会議	議場	議案提案・総括質疑
12月1日(木)	農政建設委員会	第1委員会室	付託案件の審査
12月2日(金)	文教経済委員会	第1委員会室	付託案件の審査
12月5日(月)	厚生委員会	第1委員会室	付託案件の審査
12月6日(火)	総務委員会	第1委員会室	橋爪の出番
12月7日(水)	一般質問	議場	
12月8日(木)	一般質問	議場	
12月9日(金)	一般質問	議場	
12月12日(月)	一般質問	議場	
12月14日(水)	本会議	議場	討論、議案採決

境に合わせてバランスよくやることとが大事だとことでした。被害防止の基本、環境整備の進め方、捕獲で大事なことなど、一つひとつ分かりやすく説明してもらい、勉強になりました。「イノシシの生態と対策」(株式会社ういるこ制作)という小冊子もいただきました。

## 定例議会の日程決まる

12月定例議会が30日から始まり、来月14日まで行われます。今議会では新型コロナウイルス対策が盛り込まれた一般会計補正予算、来年度から取り組まれる第7次総合計画基本構想及び基本計画の議案などが審議されます。

私は1日目の総括質疑に登壇するほか、12月6日の総務常任委員会審査で質問に立ちます。そしてまだ順番は確定していませんが、一般質問でも登壇します。一般質問での登壇の日は活動レポートの次号でお知らせします。

手続きは簡単ですので、ぜひ傍聴にお出かけください。お待ちしております。

# はしづめ法一の活動レポート

**No.2087 2022.11.27**  
 発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のかず  
 Tel 025-548-3628  
 通じないときは 090-5392-1961  
 E-mail hasiznyg\_0808@yahoo.co.jp  
 URL http://www.hose1.jp/



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一 検索

# 春よ来い

## 第七三四回

### 記憶が重なって

不思議なものです。知美さんの話が牛のお産のことになった途端、切ない思いが一気によみがえってくるのですから。

先週の土曜日の夕方のことです。高田在住の本城文夫さんから、「『夢は牛のお医者さん』の主人公の獣医師・丸山知美さんの講話を計画しました。都合がつけいたら南三世代交流プラザにお出かけください」と誘われ、参加してきました。

会では、ドキュメンタリー映画『夢は牛のお医者さん』のもとになったTENNYの映像を二〇分ほど観たのち、知美さんがスクリーンの前に立って話しました。

映画では、知美さんが仔牛をかわいがり、一緒にかけっこしたり、抱きついたりした子どもの頃の様子が強く印象に残っていました。体もさほど大きくないイメージでした。でも、スクリーンの前の知美さんは背が高く、がっしりしています。とても頼もしく見えました。

これまで、私は『夢は…』の映画を五回観ています。映画を観て、知美さんが獣医師を目指したのは、自宅でも学校でも牛を飼い、牛を好きになったからだ、と勝手に思っていました。でも、それだけではないことが話を聴くなかで分かりました。

映画には、家族みんなで牛のお産の手助けをする場面がありました。母牛の「いきみ」に合わせて、人間が仔牛をひっぱりだすのですが、映画に出てきたのはうまくいったときの映像でした。でも、知美さんが見たのは成功事例だけではなかったのです。お産に失敗して牛が死亡するところも見ていたのです。

知美さんは、この日、「家では仔牛が亡くなることもあって、今は許可されないが、死んだ仔牛を土の中に埋めた。そのときに牛を助けたいと思った」と語りました。牛たちが病気をしたり、難産したりするところを見た。病気が治らず死亡する場

にもいた。知美さんはこういう悲しみを経験したから獣医になったのです。

この話を聞いたとき、わが家での牛飼いの記憶と重なって胸が熱くなりました。

お産は人間だけでなく、牛でも一大事です。牛の場合、仔牛の前足と頭が正常に出てくるときはいいのですが、中には片足だけ出てきたり、頭だけ出て、手の方は「きよつけ」をしていることがあります。さらには「逆仔」（さかさこ）と言って手でなく、足が先に出てくることもあります。わが家の場合、ロープで引っ張るだけではダメで、チェーンブロックまで使ったことが何度もありました。

一生懸命手助けしたものの、牛の親子とも亡くなったことがあります。「牛のお産を見せてください」と若いお父さんが親子で牛舎に來られたときに、母胎から出てきた仔牛がすでに死亡していたこともありました。こうした切ない体験は私にも何度もあったのです。私も死んだ牛たちを畑に何頭も埋めてきました。ですから、知美さんの気持ちはよくわかります。

会場からの質問タイム。丸山知美さんは、「獣医をやっているよかったですか」という質問に答えていました。「治療で農家に行き、手術などがうまくいき、あんたに來てもらってよかった」と言ってもらえるのが一番うれしい。きょうも難産だったが、親子とも助かった。きょうは、だからとてもうれしい。この言葉、実感がこもっていましたね。

質問タイムで知美さんは、「農家の方の経営が上向きになってくれることもうれしい。でも、いまはたいへんだ。経営主が病気になったりして経営がガタガタになることもある。そういうときは切ない」ともべていました。話を聴き、牛にも畜産農家にもやさしい知美さん、なんと素敵な獣医さんだろうと思いました。

## 10回目の押し花作品展

奥田押し花教室はこのほど吉川コミュニティプラザで10回目の作品展を開催し、大勢の人で賑わいました。

作者の「お気に入り」作品コメントには、「玄関に飾り、色あせたかもしれないが、次のお気に入りができるまで飾っておきたい」というのがありました。いいですね。



## 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月16日(水)	11月23日(水)
上越南消防署	0.053	0.050
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.057	0.057
頸北消防署	0.040	0.043
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.040	0.047
名立分遣所	0.057	0.057
高士分遣所	0.050	0.047

## あの頃の青春コンサートは16回目

16回目を迎えたあの頃の青春コンサート、「ニ中フレンズ」「なかちゃん」「クレア」などの懐かしい歌声に酔いしれました。



# 春よ来い

## 第七三四回

### 記憶が重なって

不思議なものです。知美さんの話が牛のお産のことになった途端、切ない思いが一気によみがえってくるのですから。

先週の土曜日の夕方のことです。高田在住の本城文夫さんから、「『夢は牛のお医者さん』の主人公の獣医師・丸山知美さんの講話を計画しました。都合がつけいたら南三世代交流プラザにお出かけください」と誘われ、参加してきました。

会では、ドキュメンタリー映画『夢は牛のお医者さん』のもとになったTENNYの映像を二〇分ほど観たのち、知美さんがスクリーンの前に立って話しました。

映画では、知美さんが仔牛をかわいがり、一緒にかけっこしたり、抱きついたりした子どもの頃の様子が強く印象に残っていました。体もさほど大きくないイメージでした。でも、スクリーンの前の知美さんは背が高く、がっしりしています。とても頼もしく見えました。

これまで、私は『夢は…』の映画を五回観ています。映画を観て、知美さんが獣医師を目指したのは、自宅でも学校でも牛を飼い、牛を好きになったからだ、と勝手に思っていました。でも、それだけではないことが話を聴くなかで分かりました。

映画には、家族みんなで牛のお産の手助けをする場面がありました。母牛の「いきみ」に合わせて、人間が仔牛をひっぱりだすのですが、映画に出てきたのはうまくいったときの映像でした。でも、知美さんが見たのは成功事例だけではなかったのです。お産に失敗して牛が死亡するところも見ていたのです。

知美さんは、この日、「家では仔牛が亡くなることもあって、今は許可されないが、死んだ仔牛を土の中に埋めた。そのときに牛を助けたいと思った」と語りました。牛たちが病気をしたり、難産したりするところを見た。病気が治らず死亡する場

にもいた。知美さんはこういう悲しみを経験したから獣医になったのです。

この話を聞いたとき、わが家での牛飼いの記憶と重なって胸が熱くなりました。

お産は人間だけでなく、牛でも一大事です。牛の場合、仔牛の前足と頭が正常に出てくるときはいいのですが、中には片足だけ出てきたり、頭だけ出て、手の方は「きよつけ」をしていることがあります。さらには「逆仔」（さかさこ）と言って手でなく、足が先に出てくることもあります。わが家の場合、ロープで引っ張るだけではダメで、チェーンブロックまで使ったことが何度もありました。

一生懸命手助けしたものの、牛の親子とも亡くなったことがあります。「牛のお産を見せてください」と若いお父さんが親子で牛舎にいられたときに、母胎から出てきた仔牛がすでに死亡していたこともありました。こうした切ない体験は私にも何度もあったのです。私も死んだ牛たちを畑に何頭も埋めてきました。ですから、知美さんの気持ちはよくわかります。

会場からの質問タイム。丸山知美さんは、「獣医をやっているよかったですか」という質問に答えていました。「治療で農家に行き、手術などがうまくいき、あんたに来てもらってよかった」と言ってもらえるのが一番うれしい。きょうも難産だったが、親子とも助かった。きょうは、だからとてもうれしい。この言葉、実感がこもっていましたね。

質問タイムで知美さんは、「農家の方の経営が上向きになってくれることもうれしい。でも、いまはたいへんだ。経営主が病気になったりして経営がガタガタになることもある。そういうときは切ない」ともべていました。話を聴き、牛にも畜産農家にもやさしい知美さん、なんと素敵な獣医さんだろうと思いました。

## 10回目の押し花作品展

奥田押し花教室はこのほど吉川コミュニティプラザで10回目の作品展を開催し、大勢の人で賑わいました。

作者の「お気に入り」作品コメントには、「玄関に飾り、色あせたかもしれないが、次のお気に入りができるまで飾っておきたい」というのがありました。いいですね。



## 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月16日(水)	11月23日(水)
上越南消防署	0.053	0.050
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.057	0.057
頸北消防署	0.040	0.043
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.040	0.047
名立分遣所	0.057	0.057
高士分遣所	0.050	0.047

## あの頃の青春コンサートは16回目



16回目を迎えたあの頃の青春コンサート、今回は「二中フレンズ」「なかちゃん」「吟遊詩人」「クレア」など15組の皆さんが熱唱しました。

私は「ひとり上手」「冬が来る前に」などの懐かしい歌声に酔いれました。青春時代の歌は素晴らしい。